

## ◆市長のお出かけトーク◆

・平成22年度第2回 美濃加茂商工会議所青年部

開催日・参加者	内容(参加者の主な発言)
<p>平成22年6月18日(金) 商工会議所3階大会議室 26名 参加 ・美濃加茂商工会議所青年部の6月例会に参加し、商工業を営む市民の方たちと、美濃加茂の将来について語り合いました。</p>	 <p>【主な発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 子どもの数が少なくなっています。今まで大勢の人で高齢者を支えていましたが、これから負担が増えていきます。一人で介護をするような状況の人は、兄弟にも誰にも相談できません。その部分で行政に支援していただきたいです。</li><li>○ 両親が年老いたときには、面倒を見るつもりでいますが、家内が嫌だと言えどどうなるか分かりません。介護施設を増やす、または、施設はあっても介護に携わる人が少ないから増やそうというような計画はありますか。</li><li>○ PTA会長を務めています。子育てに関する相談は、新興住宅地の加茂野地区で、一番問い合わせが多いそうです。反対に、昔からある住宅地は相談件数が少ないようです。市として、子育てに関する悩み相談の窓口を広げるような計画はあるのでしょうか。</li><li>○ 市が情報を提供・発信していくホームページや広報から、市民に情報を得てもらうのも大事なことだと思います。</li><li>○ 市外に行ったときに、これは美濃加茂なんだなと、地元を懐かしめるような特色のあるものがあるといいなと思います。蜂屋柿が世界に認められていますが、天候によって良し悪しが変わってきますので、安定して市場に供給できるようなものがあると思います。大きい企業を誘致するのも一つの方法だとは思いますが、美濃加茂で生み出せるものを願います。</li></ul>

ます。

- 私事ですが、先週子どもが生まれました。市が発展していくには、人口増加は必要不可欠だと思います。子どもがせっかく生まれてきたのに、暗いまち美濃加茂では意味が無いので、明るいまち美濃加茂を目指して頑張っていきたいと思いますので、いろいろご指導いただきたいです。
- 市からの情報と市民からの情報を交換できるような機会がもっとあればいいと思います。インターネットもそうですが、参加という意味を含めて、情報交流が出来るような地域になっていけば、いろいろな未来が見えてくるのかなという気がします。10年後の目標に向かって何か参加できるような情報をいただければ、お手伝いしながら頑張っていきたいと思います。情報伝達の面で、美濃加茂らしい方法を考えていただければいいなと思います。
- 青年部の部員章に「地域文化の核になろう」というものがあります。夏の花火大会でもそうですが、元気の源は青年部だと言われるくらいに青年部が地域の核になっていけたらと思います。青年部が地域にどう関わっていくかが一番のポイントだと思います。

#### 【市長の発言】

- 国から指定を受けて、古井地区で独居老人の方たちへの支援をどうするか、モデル事業を行っています。まだ始めたばかりでこれからなのですが、実際、民生委員さんだけではなかなか十分な対応をしきれません。本当は、向こう三軒両隣くらいは、皆さんのテーマである「絆」の強固な地域づくりがこれから求められると思います。残念ながら今は、アパートなんかだと隣に誰が住んでいるのかすら知らない世の中です。このような状況を具体的にどのようにしたらいいのか、結論はまだ出ていませんが、そういったことをみんなで考えて、実行していこうとしているところです。
- 介護についての審議会がありますので、施設や介護従事者を増やしていくべきかをそこで審議します。ただ、むやみに造ってしまつて、たくさん利用すると、すぐに介護保険料に跳ね返ってきて、市民の皆さんへの負担が増えてしまいます。ご家族が面倒をみる在宅介護が一番いいと思いますが、残念ながら、日本の場合はそのあたりが中途半端で、どちらかを推奨するような施策は打ち出されていません。
- 美濃加茂市ではフロム0歳プランという取り組みを行っており、ブックスタート事業というものを始めました。例えば、アパートに住む夫妻に赤ちゃんが生まれ、お母さんが近所づきあいが少なく、誰にも子育ての相談が出来ずに悩んでいるとします。そこへ、赤ちゃん向けの絵本を持った

訪問員さんがお宅を訪問します。本は3冊の中から1冊選んでいただいて、赤ちゃんに読み聞かせを行うとともに、家庭の状況やお母さんの悩みを伺います。いろいろと相談に乗ることが出来ます。

また、保育園・幼稚園に入っているお子さんや小学生を持つお母さんの悩みはそれぞれ違います。お父さんの子育てに対する支援も行っています。おじいさんおばあさんと同居している方は、そんな悩みは無いと思います。やはり、ご主人がお勤めに行っていて、昼間に1人で子育てしているお母さんが、一番悩みやすいと思います。総合福祉会館の2階にはサンサンルームというものがあり、たくさんの親子が訪れています。他のお母さんとお話したり子ども同士遊ばせたりしています。保育士の資格を持つ職員が悩みなどの相談に乗っています。ボランティアの相談員もいます。中部台の公民館でも毎日ではないですが、行っています。ぜひ出掛けてください。様々な情報が子育て関係のホームページにありますのでご覧ください。

- インターネットを使える環境にある方がどれだけみえるかという問題もあります。古いデータですが、ホームページを見たことがある人は17%のようです。また、広報紙を読んだことがある人は40%ほどだそうです。これを改善しようと、今年の5月1日号から紙面をリニューアルしました。というのは、広報紙に関するアンケート結果から、若い人があまり読んでいないことが分かり、若い人に読んでもらうためにはどうしたらよいかということで、目を引くデザインに変えたということです。
- 商店街は社会貢献の役割を果たしていると思います。青年部の皆さんに、夏祭りや産業祭にご尽力いただいております。そういった地元の皆さんにやっていただくことにより新たな価値を認めてもらえる時が来るのではないかという話もあります。
- 美濃加茂市には、関市の刃物、美濃市の和紙、多治見市の陶器のようないわゆる地場産業がなかったので、企業誘致をやってこられたのですが、これからどうしていったらよいかということが重要です。今までの努力は続けていかなければならないのは当然ですが、さらに付加価値のあるまちづくりが必要です。ただ、行政が全てお膳立てしようとする、全て公平、全て公正になって、結局何もならないということになってしまいます。民間の皆さんが、自分たちで手を組んで、行政はそれを支援するという形になるかと思います。
- ホームページに「美濃加茂コンベンションガイド」というページが出来ました。これは美濃加茂市で会議を行いませんかと案内する企画です。文化会館・文化の森・中央公民館・シティホテル・中央体育館を挙げ、どれくらいの規模の会議が出来るかを紹介しております。こちらから他へ出向くわけではなく、美濃加茂に来ていただくということです。単にモノを

つくればそれが美濃加茂ブランドだということではないと思います。美濃加茂には国道が4本通っていますし、高速道路も通りました。JRの高山線・太多線、長良川鉄道もあります。また、「ビフォーアフターコンベンション」「アフターコンベンション」といって、会議だけでなく、会議の前後に観光を組み合わせられるよう周辺の観光スポットも紹介しています。青年部の皆さんも、たまには、県の集まりを美濃加茂で行っていただければと思います。

- 第5次総合計画では、10年後の目標人口を6万人としています。今年6月1日現在の人口は、前年同月と比べると、マイナス148人です。今まで増加傾向だったのが、横ばいになっています。内容をみると、外国人が減っていて日本人が減っているわけではないようですが、やはり一番の課題だと思います。
- 今年度中にCATVの市内全域整備が完了する予定です。ケーブルテレビもそうですが、ブロードバンドの環境を整えるという意味もあります。例えば、市内のどこに住んでいても同じサービスが受けられる、情報を受け取れるようにするためです。
- 定住自立圏を推進しています。美濃加茂市は中心市の要件を満たしておりまして、関市や可児市は要件を満たしていません。“中心市”とはいっても本当の意味で、皆さんが中心になれるよう目指していかなければなりません。放っておけば、人口はますます減っていくでしょう。そうならないように皆さんとも話し合っていきたいと思います。今は、坂祝町との連携が進んでいますが、近い将来、川辺町とも始まる予定です。また、可児市や関市、各務原市などとも、どのように連携していくのかが重要となってくると思います。その場合でも中心市であり続けられるようにしていかなければなりません。

## <市長と語ろう アンケート>

問1 年代は？ 30代 12名、 40代 10名

問2 性別は？ 男性 20名、 女性 2名

問3 市長と気軽にお話できましたか。

- 1 できたと思う 2名
- 2 まあできた方だと思う 10名
- 3 発言する機会がなかった 10名
- 4 その他 ( )

問4 今回の印象として、あなたの感想はどれに一番近いですか。

- 1 大変良かった 5名
- 2 まあまあ良かった 15名
- 3 あまり良くなかった
- 4 良くなかった
- 5 なんともいえない 2名

問5 このように市民の方と市長が話し合う機会は、必要だと思いますか。

- 1 必要だと思う 22名
- 2 必要とは思わない
- 3 どちらでもよい
- 4 わからない

【今後、タウンミーティングを開催する場合、どのような「テーマ」があるとよいと思いますか】

- ・ テーマがなくとも市長と市民が気軽に会話ができる、井戸端会議を公園や産業祭など気軽な場所でできるといい。
- ・ 観光資源の開発と宣伝方法
- ・ 具体的なテーマを双方がしっかり理解したうえで行ったほうがよい。こちらからの質問だけでなく、あらかじめ市長からの質問があるともっと活発な意見交換ができたのではないか。
- ・ 各種団体と市政との関係のあり方。
- ・ 教育環境について、つっこんだ話をしたいです。  
(やはり市の将来は、子どもたちにかかってくる。)
- ・ 雇用について (企業誘致)

- ・ 事前に具体的なテーマがあると、いろいろ考えてくることができました。
- ・ 美濃加茂市の良い所をもっと広く市外の方に知ってもらうための「よいとこ探し」
- ・ 子育てと介護
- ・ 地場産業の未来
- ・ 外国人との共存
- ・ 安全について
- ・ 明るい街「みのかも」にするにはどうしたらいいか
- ・ 環境に関するタウンミーティング、街の美化
- ・ 行政と市民が一体となって取り組んでいけるテーマ

**【今後、市に期待することを自由にお書きください】**

- ・ 情報伝達網の充実と利用方法を更にわかりやすく説明し、より相互の声が生きる市にしていきたい。
- ・ 人口問題、少子化問題、財政健全について、詳しく聞きたかったです。
- ・ 物産、景観など美濃加茂ブランドの市外への発信。
- ・ 情報発信をメール、広報紙はもちろん、見たら得する何かがあればよい。
- ・ 市民との絆をもっとつくってください。その輪を広げていくことこそ本当に必要だと思います。
- ・ 美濃加茂市へ遊びに来ていただけるような「まち」づくりをしてください。
- ・ 税金、人口が増加し、より住みよい街になること。
- ・ 自治会の加入率
- ・ 防犯対策の向上
- ・ 地域における人的交流
- ・ 情報交換、情報共有
- ・ 子どもたちが大人になっても住みたいと思う街になることを期待します。
- ・ 明るい行政
- ・ 街の声を気軽に聞いていただける機関（目安箱）を増やしてほしい。